

■なでラボ プロジェクトシート(案)

▼プロジェクトタイトル	25文字程度にまとめる
火縄銃日本一！子どもに長久手の記憶を残そう！	

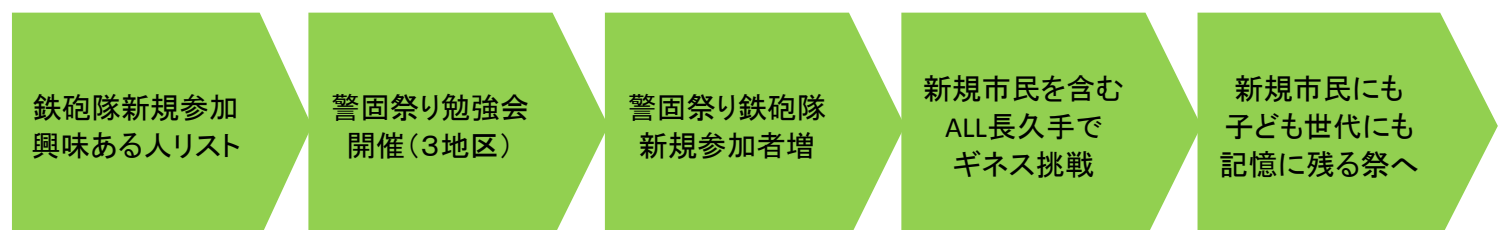
▼プロジェクトサブタイトル	50文字までにまとめる
「火縄銃日本一の長久手」を新しい市民の子ども世代にも「まちの記憶」として残そう！	

▼プロジェクト概要	200文字程度で全体をまとめる
この25年で人口が倍増している長久手には、「住みやすさ」だけでなく他にはない歴史と文化があります。400年以上続けてきたからこそ、国指定「選択無形文化財＝愛知のオマント」の中でも最大規模のまつりとなっている警固まつりの歴史と文化もそのひとつです。 人口が急増している長久手だからこそ、新しい市民の子ども世代に「まちの記憶」として歴史や文化が残せるかどうかがとても大切だと思います。	

▼プロジェクトの未来	目指す未来のイメージ(箇条書きで各50文字程度／厳選3つ)
1、新しい市民も「火縄銃日本一のまち＝長久手」に参加できて、一緒に誇れるようになりたい！	
2、大人が新旧市民みなでお祭りを盛り上げる姿を、子ども世代にも見せたい！	
3、日本一平均年齢が若い＝新規市民の子ども世代が帰ってこない30年後は高齢者のまち！危機感共有！	

▼プロジェクト想定連携先	呼びかけ内容
・3地区のオマント／警固まつり保存会	歴史の勉強の講師としてお呼びする／まつりに参加させてもらう
・各地区の自治会／ながくて広報	回覧板や広報での新規参加者勉強会案内
・各地区の子ども会／各学校PTA	警固まつりの見学声掛け(ツアーとして見学者に解説ボランティア派遣)

▼プロジェクトイメージ	どんなことを今後やりたいとおもっているのか
1、これまで鉄砲隊に参加したことのない人で興味のある人のリスト作成(FacebookページやLINEページ開設による拡散)	
2、オマント／警固祭りについて岩作・長湫・上郷の3地区それぞれの歴史を学ぶ勉強会を開催	
3、鉄砲隊に新規参加者が参加しやすい環境づくり→新規参加者を増やす(特に新規市民に広げる)	
4、3地区の保存会に新規加入した新規市民参加者も含めたALL長久手で警固祭り内でのギネス記録に挑戦(公認を受ける)	
5、新規市民の子ども世代にも、みんなで祭りを盛り上げようとする大人の姿を記憶に残したい	



▼発起人	浅井 峰光
------	-------

▼発起人背景	プロジェクトをやりたいと思った個人的な動機や背景、経験などを詳しく記載(3段落&小見出し)
--------	---

■子育てのために帰ってきた長久手への違和感

本家が岩作にある家の、分家の長男として長湫地区で生まれ育ち、大学から35歳までを長久手外で過ごし、子育てを長久手でしたいと思い、長久手に帰ってきました。

小さい頃に棒の手をやった記憶はあるものの、どちらかと言うと「嫌々やらされていた記憶」でした。だから、正直、長久手の外から警固祭りに参加しようとは思っていませんでした。

子どもが1歳になってようやく帰ってきた長久手は、人口が倍増していて同じような若い世代も多いまちに変貌していました。しかし、小さい頃の長久手の雰囲気とは何か違うように感じています(それが何かは明確にわかりません)。そう考えるうちに、ふと、自分の子どもは、将来長久手に帰ってきたいと思うかどうか心配になってきました。

自分が小さい頃北・西・南小校区には新規市民が多数入ってきていましたが、いまそのころに同級生だった子ども世代はどれくらい長久手に帰ってきているのかという点も心配になりました(実数はわかりませんがあまり帰ってきていないのではないかと推測しています)。

■もともと興味のなかった「警固まつり」。勉強してみるで可能性に気付く

一方で、長久手外では、日本全国で広い意味では「まちづくり」をしている人に多く出会ってきました。共通したのは、どこかで「カッコイイ大人」との出会いがあり、そういう人に憧れたり師事したりする形で、自らもそうになっていったという点でした。

そういう視点で見渡すと、いままで全く興味のなかった警固祭りが、他にはない歴史と文化という意味でとても可能性があることに気付きました。さらに勉強していくと、400年にわたってオマントを守り育ててきたからこそ、今ではダントツ日本一の火縄銃保持数となっていることもわかってきました。

■Uターン×子育て世代の自分だからこそできる新規市民にとっての「警固祭りの入り口」づくり

私の場合はUターンということもあり、分家の身ながら祖父が残してくれて父が使っていた装束や火縄銃一式があるので比較的参加しやすいのですが、そうでない新規市民の方にも、「日本一火縄銃のまち＝長久手」に参加し、みんなで祭りを盛り上げていく雰囲気を作っていけたらいいと思います。

いままで全く興味のなかった警固祭りで、これから自分も勉強していくというスタンスだからこそ、新規住民の方ともギリギリ教諭できる感覚があるのではないかと思います。すでに長く祭りをやってきた人にどんどんご教示いただきながら、新規市民の「警固祭りの入り口」づくりをしたいと思います。

▼他地域／他国参考事例	似ている事例を他地域からさがしてみる。
-------------	---------------------

石川県七尾市「青柏祭(通称:デカ山)」まちづくり会社株式会社御祓川 森山奈美さん／森山明能さん

<http://www.rise-tohoku.jp/?p=5100>

http://community_innovators.etic.or.jp/modelcase/moriyama

記事より抜粋:「地域への想いを強くしてくれるのは、あとは祭りですね」と森山さん。日本一大きな山車を引く「青柏(せいはい)祭」では、終盤、町衆が唄い上げる「七尾まだら」を一緒に唄いながら「俺はここで生まれ・生きていくんだ」との感動で涙が溢れるという。→考察:大人世代のまちづくりへの想いが伝統の祭りを通じて次世代に継承されたケース。さらに、影響力のある若者がもどってくることで、周りの同級生にも波及していくという事例。

▼助けてほしいポイント	プロジェクトに足りないことや手伝ってほしい点(箇条書きで各50文字程度／厳選3つ)
-------------	---

1、新規市民で、警固まつり(鉄砲隊)に興味はあるけれどまだ参加していないという方をご紹介します。

2、オマント／警固祭りの歴史や文化を教えてください諸先輩方をご紹介します。

3、次世代の子どもに「火縄銃日本一のまち＝長久手」を紹介させてくださる場をご紹介します。